

## 第4回 第4次日野市農業振興計画策定委員会 要点録

日 時:令和5年8月22日(火) 14時00分～16時00分

場 所:日野市役所5階 502会議室

出席者:10名

※敬称略

番号	氏名	種別	備考
1	旗野 利之	市内農業者①	日野市農業団体連合会会長
2	梅村 桂	市内農業者②	株式会社ネイバーズファーム代表取締役
3	馬場 裕真	日野市農業委員会	日野市農業委員会農政部長
4	七種 和宏	JA 職員	東京南農業協同組合 日野地区指導経済課営農センター課長補佐
5	金井 望	東京都農業会議	一般社団法人東京都農業会議業務部
6	野島 智佳子	公募市民①	
7	齊藤 佳花	公募市民②	
8	直井 樹	東京都職員②	東京都南多摩農業改良普及センター
9	青木 奈保子	日野市①	日野市産業スポーツ部長
10	吾郷 勝	日野市②	日野市産業スポーツ部都市農業振興課長

欠席者:1名

1	鎌田 純徳	東京都職員①	東京都農業振興事務所農務課
---	-------	--------	---------------

### 1. 開 会

産業スポーツ部長より挨拶

### 2. 第4章前期アクションプラン「2. 市民の暮らしとつながる農業」の検討

#### (1)

委員:学校給食供給用農地についての説明を加えた方が分かりやすい。

委員:文章が唐突に学校給食から始まってしまっているの、市が食育として学校給食に重点を置いていることがわかる文章を加えた方が良い。給食以外の農業体験の取り組みも記載する。

委員:学校給食にどのような農産物が使われているか、品目を追記してもいいのでは。

事務局:じゃがいもなどの契約栽培品目についての記述を追加する。

211

事務局:畑1筆分を増やす目標だが、具体的な場所は決まっていない。

委員:区画整理が予定通り進むとは限らないので面積目標にしておくのはいいと思う。

委員:西平山地区は農地を集合換地する予定だが、換地し自分の土地が戻ってきたとき所有者は高齢になっていることが考えられる。そういう農地を他の農業者に貸すよう積極的に働きかけたい。

212

委員:秋ごろから潤徳小と日野八小で試験的に開始する予定。

委員:対象地域の拡大に伴って人件費は当然かかってくるので金額的には厳しい。

事務局:JA 担当者から聞いているのは、早朝やみなみの恵みが休みの時にも学校給食は出荷があるのでそこが課題となっているとのこと。

委員:地区拡大が令和10年にどこまで拡大していくのかが良くわからない。

委員:今回試験的にやっている2校は続けてほしいが、来年度初めにもう少し校数を増やすのが理想。現在平山地区で行われているように、遠方の学校を優先的に実施していきたい。

事務局:農家のニーズを聞きながら地区を拡大していけたらと考えている。

委員:高齢になっても給食への出荷を励みにしている方もいる。免許返納のため諦めてしまうのも悲しい。

委員:現在供給農家は何名いるのか?

事務局:3地区あわせて32農家。

委員:将来を考えると高齢により供給農家も減っていくことも考えられる。運搬支援もだが、給食の供給農家を増やすことも考えていかなければならない。

213

事務局:作付け調整会議の2回目は代表者のみの全体会議を想定している。

委員:平山地区では4月に全体会、8月に栄養士と会合をして秋からの出荷などについて話し合い、10,11月に栄養士の畑見学会を実施している。

214

事務局:市が主催するイベント以外も増やしていきたい。

委員:豊田駅の北側は新しいマンションも多く新住民向けのイベントができたら良いと思う。

委員:この項目は七ツ塚ファーマーズセンターだけか?他地域については記載しないのか?

事務局:七ツ塚ファーマーズセンターは農の発信拠点として市が設置しているが、拠点機能を強化する意図でここに記載している。農のイベントを市全体で増やしていきたいのはもちろんそうだが、実施状況の把握が難しくなってしまう。

委員:ちょっとした農家のイベントはよくあるので、追加してもいいと思う。

委員:場所を特定しない指標を追加するべきかどうか。

委員:体験農園まではいかなくても収穫体験ならやっている、という人もいる。

事務局:農業者に収穫体験の件数を聞くのも大変。

委員:収穫体験がどこでできるか、どこに聞けばいいかわからないのもある。コロナ禍もあり自然にふれあいたいというニーズも高まっている。

委員:指標をもう一つ追加したほうがいい。

委員:プラットフォームの形成の目標にして実施にするとか、イベントの情報発信のための指標を追加するとよい。

事務局:この場では持ち帰り、検討とする。

## 215

事務局:現在でも全小学校で何かしらの農業体験授業が実施されている状況。

委員:中学だと職場体験や、カリフラワーの栽培、ボランティアの授業で農家に行くところもある。

委員:中学だと農業体験が色々なスタイルであるので指標が難しいかもしれない。

事務局:ここでは小学校に絞って指標を作成する。

## 216

委員:田んぼの学校は非常に人気のあるイベント。

事務局:運営は中央公民館に任せている。

(2)

## 221

事務局:目標を33か所としているが、学校給食供給農家と現在防災兼用農業用井戸を設置している農家数の合計となっている。

委員:災害時の畑利用は進めていかなければならない。

委員:防災協力農地のルールは？

事務局:これから市で要綱等を作成する予定。

委員:あくまで一時的な資材置き場、避難場所としての活用を考えている。

委員:出来れば農地より公園や緑地の活用を優先してほしい。

## 222

意見なし

## 223

委員:コミュニティ農園とは、農家が農地を提供し、市民が農作業をするような農園。コミュニ

ケーションを目的にした人が増えてきてる。

委員:きちんと手続きを踏んでやらないといけない。農業者もしっかり関わっていくべき。

委員:所有者・主催者・参加者の関係性を明確にしないとけない。法的には、貸借手続きの際に市民農園・体験農園として届ければ問題はないが、体験農園の場合は任意団体が開設者になれない等細かい決まりがある。

**224**

委員:管理は誰が行うのか？

事務局:市民団体と交渉中。現在ある市民農園のうち、1つの農園で交流型市民農園が出来るように運営方法を検討中。

(3)

**231**

意見なし

**232**

意見なし

**233**

委員:今の援農ボランティアのやり方だと、援農ボランティアが援農する先の農家が決まってしまう。繁忙期などに行うスポット援農は是非やってほしい。

委員:現在の制度でも早めに言えばスポット援農も可能だが、急な対応は難しい。

委員:繁忙期は人手が必要だし、逆に農閑期は農作業が少ないので援農ボランティアには休んでもらうことが多い。

委員:援農ボランティアも援農先の農家が決められているから他の農家の状況がわからない。LINE等で連絡取り合えるような状況が望ましい。

### 3. 事務連絡

事務局より説明

### 4. 閉会